

(件名)

## 豪雨災害に関する市町担当者緊急対策会議の実施結果

(危機管理部 危機対策課)

### 1 要 旨

6月28日から7月8日にわたる「平成30年7月豪雨」により、西日本を中心に各地で河川の氾濫や浸水、土砂災害が発生し、多くの方が犠牲となった。

本県においては、「水防災意識の再構築」に向けた取組を大規模氾濫減災協議会等で進めているところであり、今回の豪雨災害を受け、取組を更に加速させる必要があることから、標記会議を開催し豪雨災害に関する情報提供や市町の事態調査の結果報告、意見交換を行った。

### 2 概 要

- (1) 実施日時 平成30年7月30日(月)14時30分～17時00分
- (2) 場 所 県庁別館5階 危機管理センター東側
- (3) 出席者 静岡大学 牛山教授、各市町防災・建設担当課長  
(合計約110名) 国交省直轄事務所、静岡地方気象台、県関係部局担当者
- (4) 内 容
  - ・「平成30(2018)年7月豪雨による人的被害等についての調査」  
(静岡大学 牛山教授)
  - ・「平成30年7月豪雨と特別警報」 (静岡地方気象台 熊田防災管理官)
  - ・調査結果の報告 (静岡県危機管理部・交通基盤部)
  - ・市町の今後の対応について (静岡県危機管理部・交通基盤部)
  - ・意見交換

### 3 結 果

これまで進めてきた市町の警戒避難体制の構築や住民への周知などのソフト対策について点検するとともに、今後の取組む内容について、短期的、中期的に対応すべきものを整理し、今後進めていくことを確認した。

また、意見交換では「住民避難の実効性の向上」をテーマに、市町と意見を交わした。市町からは「豪雨災害に関する住民の避難意識は向上していると感じるものの、なかなか避難行動に結びつかない」などといった意見が寄せられた。

今後はこれらの意見も踏まえ、「住民避難の実効性向上検討会(仮称)」において、行政からの情報が確実に伝達され、住民が情報を正しく理解、判断し避難できるような具体策の検討を進める。

#### 4 当日の様子



牛山教授による講演



熊田防災管理官による講演



県担当者からの説明



意見交換の様子



意見交換の様子



意見交換の様子